

さんかくひとりごと

～ この頃のはなし ～

子供向けジェンダーレス肌着を発売するというニュースがあった。男女で分けていた色やデザインを統一し、機能性を重視した肌着で、男の子用・女の子用という表示ではなく、KIDS（キッズ）と表示される。女の子は「ピンクの肌着だと何となく恥ずかしい気がする」と言い、男の子は「脱ぎ着しやすいのが一番だ」と答えている。なるほど、それぞれの思いで選択すればいいんだ、と思った。

ユニセックスの洋服が増えて、色やデザインが同じで多様なサイズを選べるものも人気だという。女性でも大きめのサイズをゆったり着る。男性だから大きいサイズではなく、男性でも体にぴったりしたサイズを選ぶなど、選択肢が広がり男女で交換しても着用できるとのこと。特別な洋服でもないのにその着こなしがとてまかっこよく見えた。

新学期が近づき入学準備に追われる時期である。制服もここ数年で多様性や個人の尊重という観点が変わり変化してきている。誰でも着用できるプレザータイプが多く、女子はスカート、スラックスの2種類から選べる。多様性を認めることは子供たちにとっても歓迎すべきことだ。（森）

若い頃大きなジャケットを着ていたことを思い出した。ベリーショートの髪形だったので性別が分からなかったらしく、年配の男性に「男か女か」と真顔で尋ねられたことがあった。履いていたスカートを指さして「女です」と答えたものだ。自分自身は気にも留めなかったのに笑話で終わったが…。



わたしと本『102歳、一人暮らし。』

よく寝て、よく食べ、よくしゃべる。石井哲代おばあちゃんの心も体もさびない生き方を紹介した本です。

1920年に広島県で生まれた石井哲代さんは、20歳で小学校教員となり、56歳で退職してから畑仕事に勤しんでいます。そんな哲代おばあちゃんの日常を追いながら、自分らしくご機嫌に老いるためのアドバイスが書かれています。

「老いるとできないことは増えるし、心がふさぐ日もあります。でもね、嘆いてもしょうがない。私は自分を励ます名人になって、心をご機嫌にしておくんです」など、哲代おばあちゃんの名言とかわいい写真が掲載されていて、読めば元気がもらえること間違いなし。（のん）



著者：石井哲代
発行：文藝春秋

ボランティア編集委員の編集後記

年と共に膝も腰も衰えたが、運動はしなければ。以前、スポーツは勝ち負けの世界だったが、年を取って勝ち負けを捨てるのは寂しいものがある。近頃グランドゴルフを覚え、まぐれでホールインワンしたこともある。今、成績はぶり前である、春よ早く来い。梅

総理秘書官が同性婚について「見るのも嫌だ」と発言をしたことが大きな問題になった（撤回・謝罪したが）。持続可能で多様性を認め合う包摂的な社会を目指すとする総理も同性婚については社会が変わってしまう問題だとも…？ 森

5月8日から「コロナウイルス感染症2019」に名称が変わり、感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザ並みの「5類」に変更されるそうだ。マスク着用も自己判断に委ねられるようだが、早く元の生活にもどりたい！ のん

※参画だよりは3名の市民ボランティア編集委員にご協力をいただいて発行しています。

■編集発行

弘前市企画部企画課ひとづくり推進室 〒036-8551 弘前市大字上白銀町1番地1
電話：0172-26-6349(直通) FAX：0172-35-7956 E-MAIL：kikaku@city.hirosaki.lg.jp



参画だより

No.75
令和5年3月発行
弘前市企画部企画課

弘前市男女共同参画プラン2023の概要について

弘前市では、2018（平成30）年11月に「弘前市男女共同参画プラン2018～2022」を策定し、互いに個人の生き方や価値観の多様性を認め、性別に関わりなくすべての人にとって生きやすい男女共同参画社会の実現を目指し様々な取組を行ってきました。

令和4年度で計画期間が終了となることから、重点目標や具体的な施策をまとめた「弘前市男女共同参画プラン2023」を2023（令和5）年3月に策定しました。この新しい計画で男女共同参画の取組を更に推進していきます。



◆弘前市男女共同参画プラン2023

基本理念

一人ひとりが互いを尊重し合い心豊かに暮らせるまち弘前

男女共同参画社会 実現に向けた 3つの基本目標

- 基本目標1 すべての人があらゆる分野で活躍できる社会の実現
- 基本目標2 すべての人が安心して暮らせる社会の実現
- 基本目標3 すべての人が共に参画できる社会の実現

ひとにやさしい社会推進セミナー「家事力アップ講座 料理編」

家庭の中での夫婦の役割分担においては、女性の家事や育児に関する負担が大きく、女性が社会で活躍する上で男性の積極的な家事への参加が求められています。家事の中でも、特に料理は毎日のことであり、メニューを考えて買い物し、調理をして後片付けを行うことは負担が大きいものです。

この料理体験講座が、男性の家事への参加を促す「きっかけ」になり、それがご家庭の笑顔につながるように、という思いで初級編、中級編の料理講座をそれぞれ開催しました。

◆初級編(令和4年10月29日開催)

「食」を通じた健康づくり活動を行っている弘前市食生活改善推進委員会の方を講師にお迎えし、ニンジンの胡麻和えや青森きくらげと豚肉ネギソースなど、お弁当にも使える簡単な料理を作りました。参加者は様々なメニューを楽しそうに作っていました。



◆中級編(令和4年12月17日開催)

初級編と同じく市食生活改善推進員の方々をお迎えし、野菜の手毬寿司や鶏肉のパン粉焼き、じゃがいものガレットなどクリスマスやお正月にふるまえるような料理を作りました。

今後、ご家庭で料理を振る舞うきっかけになることと思います。



「知る」から始める性の多様性セミナー

弘前市では、市男女共同参画プランに基づき、「一人ひとりが互いを尊重し合い、心豊かに暮らせるまち弘前」の実現に向けさまざまな事業に取り組んでいます。その一環として性的マイノリティの人たちに配慮した環境整備を推進するため、周知啓発事業を実施しています。

聴いてみよう！地域で暮らすLGBTのお話

令和4年11月22日、主に青森県内で性の多様性について発信を続けている団体「スクランブルエッグ」からLGBT当事者の方をお招きし、多様な性に関する基礎知識と当事者ならではの体験談等を話していただくセミナーを開催しました。これまでの人生で一番辛かった時期や、差別や偏見をどんなときに感じるか等についても具体的に話していただき、当事者の立場や気持ちになって考えることができる内容でした。



多様な人材が活躍できる職場環境について

令和5年1月30日、性的マイノリティの方も含めた多様な人材が活躍できる職場環境を考えるためのセミナーを開催しました。

セミナーの前半では青森労働局雇用環境・均等室の方を講師にお迎えし、性的マイノリティの方に配慮した職場環境整備について求められる取組をお話しいただきました。

続く後半では、具体的な取組を進めている企業の事例として、株式会社バルシステム24ホールディングス（本社：東京都）の社員の方から、取組の内容や取り組んだことによる変化などについてお話しいただき、事業者が取り組む意義を知ることができました。



弘前市顕彰規則による顕彰の受賞(男女共同参画の推進)

長年にわたり、教育・文化・産業・経済の振興など市政の発展に尽力した個人や団体の功績をたたえる「弘前市顕彰規則による顕彰」の令和4年度受賞者が決定しました（全体で7個人と1団体が受賞）。

今回の受賞では、女性が地域社会で活躍できる環境づくりのための啓発・広報活動や、男女共同参画の推進に大きく寄与してきたNPO法人「青森県男女共同参画研究所」の功績が認められたものであり、今後の活動も大いに期待されます。

◆市政の進展、社会福祉の増進等に寄与

特定非営利活動法人
青森県男女共同参画研究所
理事長 山谷 文子（やまや ふみこ）さん



きらめく人、ときめく心

☆今回のきらめく人 蒔苗 龍一さん（弘前市民生委員）

第8回目で紹介する「蒔苗 龍一」さんは、市民の生活上の様々な相談に応じ、行政や関係機関が行う支援や福祉サービスへの「つなぎ役」である民生委員として活躍しています。



○文武両道だった学生時代を経て社会人へ

小学校5年生から大学まで剣道を続け、進学校に通った高校時代は朝6時に家を出て五能線で通い、毎日最終の電車で帰っていた努力の人です。

また、社会人になりたての頃は、労使協定のためメーデーのデモ行進が盛大に行われていた時期で、メーデーの「仕事をしない日が嫌」で転職したことも。定年で退職したときの会社では、「社長」として働いており、色々な人の話を聞く力はこの時に培ったのでしょうか。

○退職後に民生委員へ

退職後は、奥さんと一緒に趣味の山菜採りをしたり、県内の知人と日本中を旅行することや、様々な作家の推理小説・歴史小説を読んで過ごしていました。

このような生活を続けていた中で、町内会から「民生委員」を頼まれたそうです。福祉の世界は線引きが曖昧な部分もありますが、常に変わっていく世の中と同じだと考え、固定観念をもたずに対応しています。ちなみに、蒔苗さんの座右の銘は「100%の完全を否定することは不完全の容認にはならない」だそうです。

○蒔苗さんが持っている力を感じた瞬間

私が出席しているある会で、近頃、雰囲気が変わってきたと感ずることがありました。これまでうやむやにされていた事案について、蒔苗さんが話した意見で参加者が納得したことがあり、蒔苗さんの人となりこそがそうさせたのだと感じました。私にはこの出来事が輝いて見えました。

（梅）



弘前市女性活躍推進企業認定制度のご紹介

弘前市では、女性の活躍を推進するため女性の雇用環境の改善に向けた自主的な取組を実施している企業等を「弘前市女性活躍推進企業」として認定しています。女性の雇用環境を改善させることは、企業全体の成長、企業イメージの向上につながります。

○弘前市女性活躍推進企業のメリット

- ① 認定制度を支援している金融機関の融資制度の金利引き下げ
- ② 総合評価落札方式による入札の際、技術評価点として加点
- ③ 県や市で開催する女性活躍に関する研修等のご案内
- ④ 市ホームページにおいて取組内容等の掲載
- ⑤ 市有料広告掲載料の割引（広報ひろさき、本庁舎車両広告等）

○令和4年度の新規認定



第55号認定
株式会社コープ

認定制度に関する情報は
こちらから →

